

今日は、これからの時代を聖書預言で見ようという事です。この世界は次どうなるのかという事を、必死になって読み解こうとしている人たちがいます。それは投資家。彼らは先物にしてもFXにしても、先を読まない限り大損する可能性があるわけですから。

ところで今、3 大世界投資家と言われている人たちがいます。1 人目はアメリカ人でウォーレン・バフェット（1930- ）オマハの賢人と言われている人。2 人目はジョージ・ソロス（1930- ）ハンガリー系ユダヤ人。3 人目はジム・ロジャース（1942- ）。

バフェットは読みが深いというか、目の付け所が違うという事で有名だそうです。彼が最初に商売したのは6歳ですよ。チューイングガムを友人に売って、商売の楽しさを知ったと。11歳の頃、おじさんからコーラを仕入れ、友人に売って得た原資で株式投資を始めました。11歳で。何と素晴らしい少年時代。

彼の本に書いてあったのですが、5歳の時、近くにガソリンスタンドが開業して、そこに行くのがすごく楽しみだった。そこでは清涼飲料水を売っていて、地面に王冠（飲み物のふた）がいっぱい落ちている。子供は収集癖があります。私も子供の時、牛乳の紙のふたをよく集めました。珍しいのは希少価値があったんです。

彼も落ちている王冠を集めるのが趣味でした。王冠を並べて、よく売れている銘柄とそうでもない銘柄を、ここはペプシが強いのか、ジンジャーエールが強いのか、というリサーチをするのが楽しくて仕方がない5歳。元々、株の素質があったのかもわかりませんね。

株式投資をする人たちの間に、彼の名言がたくさん残っています。

ジョージ・ソロスは別名イングランド銀行を潰した男。クオンタムファンドを作りました。これは色々な投資家からお金を集めて、代わりに投資し、利益を上げて還元するという仕組み。クオンタムファンドの利回りは10年間に42倍。もし100万円預けたら、10年後に4200万円になって返って来るんですよ。伝説的なファンドでした。

このファンドで、ジョージ・ソロスとパートナーだったのがジム・ロジャース。

彼が書いた本がPHP新書から出ています。『お金の流れで読む日本と世界の未来』（2019年1月発行）

「お金は非常に臆病で、危ない所から一斉に逃げて行く。しかし、夢がある所にはワーストと寄って行く。だから、世界がどう動くかはお金の流れを見たらいい。だが、皆が集まっている時に、お金の流れを後から追いかけて行っても、もう儲けはない。まだ集まっていない時に、逆張りで張って行くからこそ、しこたま儲ける事ができるのだ。」この本、1か月で17万部も売れているそうです。あやかりたいわ。僕の本が6月に出るんですが、皆さん1人1冊、是非お願いします。

ジム・ロジャースはこの本で、読みを深めていくための柱が2本あると言っています。

① 現場主義；彼は今まで世界1周旅行を2回。ジェット機でパーツと行くのではないですよ。1回目はバイクで世界6大陸を周った。2回目はメルセデスに乗って24万キロ走破した。なぜそうするかというと、やはりマスコミという眼鏡の屈折を受けた情報は、先に判断する者にとっては古いから。

現場主義。実際に現場に立って、自分の目で見/自分の耳で聞き/自分の皮膚感覚で、この国どうなってい

るのか、世間で言われているほどには悪くないとか、世間でもてはやしているけどここは危ないとか。それは、自分の身をその場に置いてみないと分からない。
若者は世界に出て行く事を是非勧めたいです。実際に行ってみないと分からない事がたくさんあるから。

② 歴史を学ぶ；バフェットは経営学を学んでいます。ジョージ・ソロスは大学院まで行って博士号を取っているけど、経営学・経済学ではありません。哲学博士です。哲学が読めないと、これからの世界は読めないとやっている。

ジム・ロジャースは3つの大学で歴史学を修めました。彼は歴史を勉強しながら、ある時気づきます。「歴史は、同じ事がそのまま起こるという事はないが、よく似た事が形を変えて周期的に起こっている。今、外国人労働者問題・戦争・飢饉・地球温暖化など色々あるが、全部過去に何度も経験している。歴史を知らないから、これからの事を自分の短い体験の中から探ろうとするが、そんな事をしなくても、歴史を探っていけば、先人たちは既に経験している。Aの選択をした国と、Bの選択をした国が、その後どうなったかについても、歴史は既に記録している。なぜそれを活かさないのか?」

彼は色々な問題を言いながら、「私自身の考えによると、経済的な危機は4年から8年の周期で来る。」この本の1番の目玉は「あと1年から2年の間に、リーマンショックをはるかに上回るような大経済危機・最悪の経済危機が来る」という予測。これで、もう買いたくなるやん。

彼が挙げている根拠は世界の借金体質。今世界中の借金・国家・企業・個人家計及び金融機関の借金を全部合わせると247兆ドル。約3京(けい/10の16乗)。10年間で世界の借金の伸びは43%。10年間の世界のGDPの伸びは37%。世界経済の伸びをはるかに上回るスピードで、稼ぐ能力もなく借金がものすごく膨れ上がっている。これは、過去の歴史を見ると、大きな経済危機が起こる前提条件の1つだと。

なら、どうしたらいいねん？ 危機が迫っている時、どうしたらいいのか？ 彼はこう言っています。「今世界が1番危ないと思っている所に、逆張りで、そこに張るべきだ。『そこは危ない。逃げるべきだ』と世界が言っている所にこそ希望がある。あなたのお子さんが14歳ならハングルを習わせなさい。これから北朝鮮が経済の中心になるから。」どう思う？ これ。

「あなたのお子さんが1歳なら、今すぐ中国語を習わせなさい。これからはアメリカではなく、中国が世界の覇権を握るようになるから。私はこれを口先だけで言っているのではない。既に数年前にシンガポールに引っ越して、私の子供には幼い時から家庭教師をつけて、徹底的に中国語を学ばせている。皆が『危ない。逃げろ』と言っている時こそチャンスなのだ。」
彼が言っているんですよ。私じゃありません。後で責任を問わないで下さいね。

なぜ人々は、ジム・ロジャースが言っている事に注目するのか？ 彼はリーマンショック・中国台頭・トランプ大統領が当選するという事を前もって言っていました。「それはないだろう」という事を言って、その通りになったので、皆が彼の発言に注目して読んでいます。彼の的中率は7割弱。つまり3割強は外れる。でもこれは、世界の投資家の読みを考えたら、超人的な中率なのです。

イチローだって、3割バッターという事は、7割は3振でしょ。3割打ったなら英雄やん。イチローの記者会見、見ましたか？ 私はゴウイチロー。関係ない。けど似てる。

3割外れても7割当たるというので「この人の話はどんな犠牲を払ってでも聞こう」と人々が殺到する。

ならば、前もって語られていた事が額面通りに 100%、1 つも外す事なく、ことごとく実現するという書物があるなら、1 度は読んでおくべきではないでしょうか。それが、今日紹介したい聖書です。聖書は宗教の本だと思っているかもしれませんが、これは預言の本です。「人類歴史が最後どこに向かっているのか」という事を、前もって語っている書物が聖書なんです。

今日のテーマは「**東西アジアの火薬庫と聖書の終末預言**」。

東アジアは日本・朝鮮半島・台湾・中国などですね。極東と言われています。西アジアは中東です。中東は日本から見ると西にある。西にあるのに、なぜ中(なか)・東(ひがし)と言うのか？これは英語の Middle East の直訳。すなわち、イギリスから見て中ほどの東洋。これが中東。

イギリスは東洋を 3 つに分けました。1 番近い東洋を近東 (Near East)。今のアナトリア半島。1 番遠い東洋を極東 (Far East)。極東軍事裁判の極東。極東と近東の中間にあるエリアが中東。中東とは、イギリスが世界の中心という世界観に立った時の言い方で、アジアに住んでいる者が、ここを中東と言うのはおかしな話。西アジアが正しいんです。だから、今の文科省検定の教科書には「中東」という言葉は出てきません。地図帳は全部「西アジア」。

東西アジア問題とは、東アジアと西アジア問題が、今大きな火薬庫・危ないところまで来ているという事です。トランプ大統領(1946-)の前のオバマ大統領(1961-)は、外交政策については非常に消極的な大統領だったと思います。彼の時代にロシアがクリミア半島を取ったり、中国が南シナ海で島を埋め立てて、人工島を 7 つも 8 つも造りました。

しかしトランプ大統領は、大統領に立候補した時からはっきりと言っています。「私が当選したら、あらゆるジャンルに於いて中国を押し返す。」彼には数人の非常にしっかりしたブレーンがいて、それが次々首切られていくのでどうなるかと思うのですが、でもボルトン (1948-)なんてすごい。

ピルズベリー(1945-)という学者は、ニクソン大統領(1913-1994) からオバマ大統領まで、歴代大統領の対中国政策の柱になってきた人で、アメリカの中国研究の第一人者と言ってもいい人です。彼は大学院生の時の論文が CIA に注目されて、院生でスカウトされ、以来中国政策の中心をずっと歩んで来ました。この人が、以前紹介した事がありますが、『チャイナ 2049』という本を書いています。

なぜ 2049 かというと、1949 年は中国共産革命の年で、2049 年は 100 年目。「中国共産党は、共産党一党独裁政権を握った時から、100 年計画で、最終的にアメリカを追い落として、共産党体制を世界の隅々にまで及ぼすという戦略の元に動いて来た。」

この本をひと言で言えば、「アメリカは中国に騙されて来たのだ!」

分厚いけどスラスラ読めます。面白いから。エピソード満載。この本はすごい。私の本も買ってね。

中国はアメリカを横暴な暴君と見立て、最終的に追い落とすターゲットだと見ている。しかし、アメリカは中国にそんなにカリカリしていなかった。ソ連の事があったというのもありますけど。

「中国は貧しい時には尖っているが、豊かになり、国民が色々な物を持つようになると権利意識に目覚める。その結果、求める国はアメリカしかない。だから、中国が豊かになったら、憧れのアメリカのようになるだろうとノ一天気になっていた。しかし、一生の殆どを費やして中国を研究した結果、それは大きな間違いだった。私はかつて、パンダハガー (Panda hugger) 中のパンダハガーと言われたが、その私がようやく見えてきたのは、騙されて来たという事だ! アメリカよ、目覚めなければならない!」

ハガーというのはハグする人の事。パンダハガーとは、ロシアを押しやるために必要だからと、中国が何やってもギュッと抱きしめる人/親中派の事。彼がトランプ大統領の対中政策のブレーンの1人です。だから、トランプ大統領は、もう腹が座っていると思いますよ。

「2049年に中国が世界にそびえ立つ帝国になって、中国共産党が世界中の人間の指導規範になるなんてあり得ない！不可能！」中国一国でも14億人。これを1人の人間が支配コントロールするのは不可能。大きすぎ。多すぎ。この人数だけでも、誰か紛れ込んでも、私、分からへん。

しかし、この不可能を可能にするのがITハイテク技術。今、習近平(1953-)が陣頭指揮を取って、総力を挙げている技術があるそうです。それは世界最高・最速・最精密の顔認証技術。この技術を人工知能に任せて14億の人間をパララッと。

現在、簡単な顔認証技術はあります。今度、ファミリーマートで顔認証やりますよね。やめて欲しい、そんなの。便利になるって…、気色悪いと思わへん？

ちょっと話変わりますが、Tポイントカード持ってはりますか？日本で流通しているカードの中で1番多いそうです。Tポイントカードを提供しているCCC(カルチュア・コンビニエンス・クラブ)という会社、会員だけで6200万人。このCCCは捜査令状も出ていないのに、Tポイントに入会している人の住所・氏名・年齢・購入履歴、全部、警察に提供している。新聞に載りました。「やましい事ないなら、出してもいいでしょ」とか、そういう問題じゃない！もし皆さんがヘンなDVD借りてたら、その情報が全部警察に流れているんですよ。便利は何かを売り渡す。

中国が14億人の顔認証を自動的に判別するという事は、その人物が有害か有益かは、共産党政権にとってプラスになるかマイナスになるかという、人間の価値まで決めてしまうという事です。そんなシステムを完成させて開始したら、1人の人間が14億人を支配するのも可能です。

その元々の技術はアメリカから盗んだもの。トランプ大統領は「アメリカが追い求めている自由という価値観の反論に、それを使うのはけしからん」と、あらゆるジャンルで中国を追い詰めて行く事を決めています。中国に専念するために、できればロシアを自分の側に引き入れたい。

どんな戦いでも、あっちと戦いながら、こっちと戦うという2正面戦いは大変です。だから、何かと中国の後ろ盾に付くロシア・プーチンと合意できるような関係を結ぶ。そして、ロシアを中国から引き離してアメリカに引き寄せる事ができるなら、中国に集中して対抗できるのです。

ところがロシア疑惑が出て来た。それで今のところ、できない状態が続いている。だけど私は、ヘルシンキでの米露首脳会談で合意があったと見ています。今は表面上ものすごく叩き合っていますが、合意があったに違いない。だから、中距離ミサイルの廃棄がそこで決まっているのではと。それはまた今度。

とにかく、ロシアに注目したいという事で、毎回のように紹介している聖書預言の中に、ロシアについての紹介があります。**エゼキエル書 38章**。**エゼキエル**とは人/預言者の名前です。神がエゼキエルという預言者に幻を授け、人類歴史の終わりに、世界でどんな大事件が起こるかを前もって語りました。逆に、この事件が起こるのを見たら、7年間の大変な「患難時代」にグッと近づいている、と考えていいという事です。これから世界がどう動くのかが書いてある**エゼキエル書**が書かれたのは今から2600年前。

令和の万葉集。皆さん、万葉集読めますか？万葉集は万葉仮名で書かれてるんですよ。カタカナも平仮名もなかった。万葉仮名、読めません。日本で1番古い書物は古事記と日本書紀。全文、漢字です。

古事記・日本書紀が書かれたのは1350年くらい前。その2倍古い2600年前。日本はまだ国の形も文字もありませんでした。

最初に内容を言います。「ゴグと言われるロシアが、中東のいくつかの同盟国を率いて、世界中から集められたユダヤ人国家イスラエルに攻め込むが、イスラエルに入ると、超自然的な方法で滅びてしまう。その様子を世界中が同時中継で目撃し、人々は『聖書の預言は本当で、聖書の言葉は真実だ』と創造主なる神を学ぶ。」

エゼキエル 38:1-2 次のような主（天地万物を造った神）のことばが私にあった。「人の子よ。メシェク（モスクワの語源）とトバル（トボリスクの語源）の大首長である、マゴグの地のゴグ（現ロシア）に顔を向け、彼に預言せよ。

ゴグがロシアである根拠を3つ挙げます。

1) ロシアは、大きく2つのエリアに分ける事ができます。ウラル山脈から西側はヨーロッパロシア。首都はモスクワ。ウラル山脈から東側はシベリア。その中心都市が長らくトボリスク。ヨーロッパロシアとシベリアを1つのロシアとして束ねている大首長/リーダーが**ゴグ**。この条件を満たしているのは現ロシアしかありません。

2) **マゴグ**とはどこか？ 黒海とカスピ海の間にかフカス（コーカサス）という山脈が走っています。そこから上の地域が**マゴグ**で、現在その地に建設されている大きな国はロシア。北極に至るまで全部ロシア/ロシア連邦です。

3) **エゼキエル 38:15 おまえ（ゴグ）は北の果てのおまえの国から、多くの国々の民とともに来る。ゴグ**はイスラエルから見て**北の果ての国**。イスラエルの中心は首都エルサレム/エルシャライム。エルサレムから真北の北極点に向かって延長するとモスクワの上空を通ります。つまりイスラエルから見て、正真正銘の真北の方角はモスクワで、そこを首都にしているのはロシア。東ヨーロッパから極東に至るまで、非常に広くて、世界最大の領土を持っている国がロシア/**ゴグ**。

この**ゴグ**がイスラエルに入る時、単独ではなく、

エゼキエル 38:5 ペルシアとクシュとプテも彼らとともにいて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。ロシアと共にイスラエルに入って来るメンバーが紹介されています。まず**ペルシア**（現イラン）。ペルシャ人以外の、主にギリシア人が、その地域に住んでいる人の事をペルシャ人と呼びました。

私たちは日本人ですが、外国ではジャパニーズと言われます。日本にいてお互いを「君、ジャパニーズ。俺もジャパニーズ」とは言わない。マルコ・ポーロが『東方見聞録』で黄金の国ジパングと書き、それが英語でジャパンになりました。それは、外国人が日本を呼ぶために付けた呼び名です。

だから、イラン人は自分の国の事をイランと言います。イランで話している言葉はペルシャ語。向かいの海はペルシャ湾。イランの絨毯はペルシャ絨毯。イランの猫はペルシャ猫。イランは「アーリア民族の国」という意味。アーリアン。アーリア。だから、ゲルマン民族とペルシャ人は親戚です。中東のアラブ人との混血が進んでいるから、今のイラン人とドイツ人は余り似ていません。が、民族のルーツを辿って行くと、ヒトラーが大好きなアーリア人。

このイランが「ロシアと一緒にイスラエルに攻め込んで来るなら、それは世の終わりの大きなしるしで

ある」と書いてあるのです。しかし、長い歴史を見ていくと普通はあり得ない。イランとロシアは長年にわたり繰り返し戦争をして、特にロシアはイランの領土を削りに削り取りました。

20 世紀後半は米ソ冷戦時代。西側アメリカ。東側ソ連。どちらにも属さないのを第 3 世界。この第 3 世界を 1 つでも自分の方に取り込もうと、アメリカとソ連が世界中で自分の味方を増やし、競い合ってきたのが冷戦時代です。

それ以上の激しい争いを 19 世紀の 100 年間やって来た 2 つの国が大英帝国とロシア帝国。この 2 カ国の世界中での衝突をグレートゲームと言います。ロシアは基本的に南へ下りたい。ロシアは広いけど寒い。上は北極だし。海の出口へ出たい。大きな陸軍国というかハートランド/心臓部。

7 つの海を支配していた大英帝国は、下りて来たいロシアを閉じ込めておくのに、あらゆる手を打ちます。ロシアは大きすぎるので、攻め込んで占領できない。ならば、そこから出られないように缶詰め状態にしよう。これがイギリスの戦略。

ロシアは南に下りて行きたいけど、そこにはオスマン帝国がある。イギリスの植民地だったインドの方にはヒマラヤ山脈があって、すんなり行けない。となると、イランからペルシャ湾に下りて行くのが 1 番近い。

それで、イギリスとロシアは 100 年間にわたって、イランでずっと争い、イランを草刈り場にしました。イランには「ロシアもイギリスもええ加減にしろよ!」と、思い切り踏みつけられた歴史があったのです。

ところが、20 世紀初めにロシアが少し弱気になった。なぜ? 日露戦争で日本に負けたから。弱気になったところに、イギリスがふっと行って、「少し考えてみない? ずっと 100% の力で戦ってもお互いに消耗するから、イランの北側はロシア圏、南側はイギリス圏で半分こしよう」と密約を交わすのです。イラン国民はこの事を全く知りません。

悪い事に、イランに石油が発見されました。最初に石油が発見されたのはアメリカ。2 番目がイラン。ものすごい量の油田がある事が分かったけど、イランには掘る技術がない。そこでイギリスが「代わりに掘ったるか? 掘られへんのやったら、持ってないのと同じやろ? 掘ってあげるわ」と言って造った会社がブリティッシュ・ペトロリアム (BP)。この会社が油田を押さえて、イランの王様に話を持って行って買収します。「この油田からの利益は、我々の会社と王様で山分けしましょう。」「分かった!」これがずっと続きました。

そして第二次世界大戦が終わりました。この戦争が始まった頃、世界は 50 くらいしか国がないんですよ。戦争が終わったら、植民地だった国々が独立して、あっという間に 100 越えました。今は 200 に近い。

この時、イランの人たちも刺激されて「独立したい!」それには、旧宗主国から独立してもやって行けるだけの経済的基盤が必要。そのために油田があるけど、全部イギリスが握っている。なぜよそから来て、そんなに利権を取るのか!

ここでイランにモサッデク (1882-1967) という首相が出ます。彼は 1951 年に「イランの油田は全て国有化する。元々イランの油田であり、イラン人のものだ。BP は今まで投資の利益は散々取ってきたし、出て行け!」と BP を追放。イギリスは戦争が終わった後で力がない。そこでアメリカに頼みました。

アメリカはイランに CIA を入れ、極貧の人々にお金をばらまいて、「モサッデク退陣しろ!」と政府への暴動を扇動。いわゆるフェイクニュース。ある事ない事・ない事ない事で、モサッデク政権が揺さぶられている時に王様も便乗し、結局モサッデクは死刑判決。死刑はされなかったけど政権は倒れ、BP はまた戻って来て、石油利権をアメリカとイギリスで分け合ったのです。

皆さんがイラン人だったら、アメリカに腹立ちませんか? 腹立つよ、これ。「何やってくれてんねん!」積年の恨みが募っていたと思いますよ。

この 28 年後 1979 年にイラン革命が起こるのです。アメリカ大使館が 444 日間占拠され、油田はもう 1 度国有化。イラン革命が世界史に与えた影響は計り知れません。

今までは、革命と言えば「資本主義を倒して共産主義や!」という社会主義革命に決まっていた。イラン革命は「7 世紀に戻ろう!」という革命/イスラム革命です。パリからホメイニ(1902-1989)を連れて来て、イスラム原理主義の政権ができました。

その余波が東に飛んで、アフガニスタンで原理主義の考え方が強くなっていきます。1979 年、それを押さえるために、ソ連がアフガニスタンに侵攻しました。その侵攻に対抗するために結成された原理主義組織がアルカイダです。

イラン革命は西のイラクにも飛びました。イラクにはスンニ派のサダム・フセイン(1937-2006)がいます。イラクは 60%がシーア派。イランもシーア派。そこでフセインは「シーア派が暴動を起こすのでは」と心配し、1980 年にイランに攻め込みました。10 年続いたイラン・イラク戦争。この戦争の結果、サダム・フセインが強大化していき、やがて、クウェートの湾岸戦争やイラク戦争に発展していくのです。

イラン革命により、アフガン戦争でソ連崩壊が早まりました。アルカイダが結成されて、911 でアメリカの一国支配体制を揺るがせ、イラクに飛んで、サダム・フセインが倒れる大きな要因になって行く。イランはアメリカを追い出し、世界中を敵に回したので、何が何でも核兵器が欲しい。諦めていません。

さて、ここでアジア情勢を考えて行きます。

2 月 27 日・28 日に米朝首脳会談がありました。誰も予想しなかった幕切れ。28 日のトランプ大統領、本当ならば昼食会をして記者会見。ところが、金正恩(キム・ジョンウン/1984?-)がいない。米朝首脳会談決裂! 普通は着地の見込みがあるからこそ、最終的な詰めでサインするだけの首脳会談なのですが、今回は決裂だけではない。

トランプ大統領は首脳会談の秘密の事をすぐ喋る。「そんな事まで言うていいん?!」みたいな事を言うから助かります。「ああ、そうやったんか」と。

決裂した理由。はっきり言って、金正恩はトランプ大統領をナメていたと思うんです。

2 月の時点で、トランプ大統領は、国内でスキャンダルまみれでした。ロシア疑惑や、元顧問弁護士コーエンが有罪を免れるために司法取引して、「トランプは嘘つきで、ふしだらで、不倫相手のポルノ女優に口止め料を私から渡させた」とかペラペラ喋る。民主党はトランプの首を取ってやると随分叩いていた。

来年は大統領選挙。トランプは当然再選を果たしたい。そのためには、この劣勢を一挙に挽回する必要がある。彼は「歴代大統領が、誰も成し得なかった外交的成果を上げられたら帳消しになる」と考えました。それは、北朝鮮の核問題を一挙に解決するという事。

金正恩は「トランプ大統領は、北朝鮮との交渉で成果を焦っているに違いない。手ぶらで帰ったら、何のためにいったという事で、ますます人気落ちる。だから、この場で一気に畳みかけたら、こちらの言い分呑むぞ」と考えた。

なぜそれが分かるかという、珍しい事に、会談の数日前から「将軍様が会談に行かれる」と北朝鮮の国内放送でどんどん流れたのです。金正恩は電車で行きましたね。天満橋から東梅田に行くのだったら電車でもいいですよ。4日間やで！電車。腰痛いやろ。成果を上げる事ができると踏んで、4日もかけて行って、手ぶらで戻った。北朝鮮で、彼の権威は、今地に落ちています。

なぜ決裂したか、記者会見でトランプ大統領が言いました。できる限り正確に復唱したいと思います。「溝はいつかは埋まるであろうが、まだ埋まってははいない。金正恩が考えている非核化と、我々が考えている非核化の間には、大きな隔りがある。我々は、北朝鮮の施設については1インチ単位でくまなく知っている。彼はそれを示された時、随分驚いていたようだ。」
よう喋るわ。外交問題で、相手の顔に泥塗るような事、普通言いますか？

寧辺（ニョンピョン）に有名なウラン濃縮施設があつて、核兵器の材料を作っています。金正恩は「これを廃棄するから経済制裁を解いてくれ」と言っているのです。
経済制裁が行われる前の北朝鮮の貿易額は26億ドル。それが2億ドルですよ。経済制裁が非常に効いている。だから「解除してくれ。その代わりに、ウチも虎の子のこれを手放すから！」
けどトランプは「ここ以外にもあるやろ。」少なくとも20箇所指摘したそうです。
金正恩が「寧辺を出したら非核化になった」と取引しようとした事は、「お前、騙そうと思ってんのか？ふざけんなよ！」という事ですよ。あのトランプが、笑いながらそれ言うたら怖いと思いませんか？

3月29日にロイター通信が、トランプ大統領が金正恩に提出した、英語とハングルで書かれた内容をすっぱ抜きました。というよりリークです。
トランプは「核濃縮施設だけではなく、核物質・核開発施設・生物兵器開発施設・生物兵器貯蔵施設・化学兵器貯蔵施設・ミサイル開発施設とミサイル工場を全部渡せ。査察は国連の査察官ではなく、アメリカのCIAが入る。CIAが見たいと言う所は全部見せろ。そして短期間の間に、核・化学兵器・生物兵器・ミサイルの材料を全て北朝鮮の外に持ち出して、アメリカが良しと言った後で、経済封鎖を解除する。」
そら、怒ると思うで。

なぜ、そんな事を言ったのか？トランプ政権は「こうするよ」と、前もって何度も記者会見で言って来ました。でも金正恩は「表向きは強い事を言っているが、裏ではそんな非現実的な事を言うはずがない。」

金正恩にアメリカの意向を知らせるのは、北朝鮮の外交ルートと韓国の文在寅（ムン・ジェイン/1953- ）ルートの2つです。今回金正恩がビックリしたのは、アメリカが本気でここまで求めているという事を、北朝鮮の外交官も文在寅大統領も、きちんと伝えていなかったから。アメリカの要求をそのまま言ったら成るものもならないと、ハードルを随分下げて伝えていたみたい。間に誰かが挟まっている限り、アメリカが本当に求めている事が伝わらないので、トランプは直々にバンと出したのです。

顔に泥を塗られた金正恩は、3月に入って、北朝鮮の新聞に「トランプはあんな失礼な事をして！」と書かずに、「2人とも互いに良くやった」と健闘をたたえている。そして「次回の会談を約束した。」
アメリカは約束していません。でも、物別れで終わってはいない。「北朝鮮は対等に渡り合える」と、これだけ鳴り物入りで行って、手ぶらで帰って来て、今北朝鮮で何が起きているかという大ピンチ。

「千里馬民防衛」(せんりまみん ぼうえい) という組織を知っていますか? 今から2年前、マレーシアのクアラルンプールで、金正男(キム・ジョンナム/1971-2017)、ディズニーランドの正男が、VXガスの液体を顔に塗られて殺されたでしょ。この間、判決が出ましたよね。

正男に息子がいます。金漢率(キム・ハンソル/1995-)。彼がYouTubeに出ていました。「私、本物の金漢率です。私は安全です」と言って、パスポートまで見せて。パスポートにモザイクはかかってましたけど。それを流した組織が千里馬民防衛です。

この組織が、米朝首脳会談失敗となった翌日の3月1日に、臨時政府独立宣言の宣言文を北朝鮮で朗読したんです。「金正恩神格化体制を打倒しよう! 我々はそのために立ち上がろう!」それを放送しただけではなく、3月11日には、クアラルンプールの北朝鮮大使館の外壁にペンキで落書き。「金正恩体制打倒!」もちろん、今は上塗りで消してますけど。

千里馬民防衛は、3月1日から名前を変えて「自由朝鮮」と言います。そのホームページがあるので、これは是非YouTubeで見てください。22日か29日か、北朝鮮のある所で撮影されている映像。金日成(キム・イルソン/1912-1994)と金正日(キム・ジョンイル/1941-2011)の肖像画がかかっているのを外して、床にバリーンと叩きつけている。そして字幕で、「金正恩体制打倒せよ!」「自由朝鮮 万歳!万歳!万歳!」「脱北したい人はここに連絡して下さい!」と出て来る。こんなのやって大丈夫?

2月下旬には、スペインのマドリードにある北朝鮮大使館に、自由朝鮮の人たち10人が拳銃で武装して入って、大使館員を縛り上げ、顔に袋かぶせて、金目の物には一切手を付けず、パソコンとハードディスクドライブを持ち逃げしています。北朝鮮がヨーロッパでどんな外交・どんな事をやっているのか、もちろん暗号ですが解読できるんでしょう。今そんな風になっている。

北朝鮮の武力装置は5つ。北朝鮮では省よりも部の方が上です。

●保安省/警察。昔は保安部。なぜか格下げされた。●人民武力省/国防省。●保衛省/秘密警察。ナチスで言うとゲシュタポ。拉致・暗殺・脱北者の追跡・殺害など非合法的な事をする。●護衛省/独裁者のボディガード。絶対に裏切らない人たちだけを押さえている。●偵察省/人民武力省の中にある秘密警察。つまり保衛省と偵察省はライバル関係。今まで主に粛清や暗殺をしてきたのは保衛省です。(音声消去)

北朝鮮の中で、いよいよ金正恩が追い詰められています。彼は今、生きた心地しないと思いますよ。自由朝鮮のスポンサーがいないと、こんなに世界を股に掛けた活動はできません。(音声消去) ずっと中国と言われて来たのですがアメリカです。そしたら、どこがスポンサーか、大体分かるやん。恐ろしいね、これ。米朝首脳会談は、また言いに来ると思いますよ。

昨年(2018年)9月、アメリカがB-1というステルス爆撃機を、北朝鮮の領空まで巡回させて戻って行きましたね。ところが、スクランブルはゼロ。レーダーに映らない爆撃機で侵入された事に、北朝鮮は気がつかないのです。そこで次の日、アメリカが「昨日、行ったんだけど〜」と、一般紙に漏らしました。その新聞を読んだ金正恩は震え上がった。というのは、自分が全く気がつかず、何が何だかわけが分からない内に、ドンと刺される可能性があるから。

先程20か所の軍事施設と言いましたが、上から軍事偵察衛星で見ても分かりません。その場所を、どうしてアメリカが知っていたのか? それは人間からの情報です。北朝鮮の内部に、アメリカへの協力者が入っているという事でしょう。あの国が本気になったら怖いで…。

アメリカが北朝鮮をここまで追い詰めている理由は3つあります。

① イランと北朝鮮との関係；この2か国は、軍事技術に於いて相互補完的な協力関係。イランは北朝鮮のミサイル技術が喉から手が出るほど欲しい。北朝鮮はイランの核技術が喉から手が出るほど欲しい。なので、北朝鮮の核実験やミサイル実験の時には、しばしばイランの技術者が入っている。イランで実験を行う場合は、北朝鮮の技術者が入っている。これは一般紙で報道されています。

つまり、北朝鮮の核技術・ミサイル技術を叩くという事は、間接的にイランを叩くという事。だから、西アジアと東アジアの問題は別物ではない。地下で繋がっているんです。

② イランに対するプレッシャー；北朝鮮は核実験を6回やったんですかね。想定している破壊力ではないまでも、大きな核弾頭についてはほぼ破壊力がある。ミサイルに搭載できるような小型化はできていないけど、そこそこの破壊力がある。

アメリカは既に核を持っている北朝鮮に対し、その核を捨てさせる事に妥協しません。「持ってしまったから仕方がない。手放す訳ないから諦めるしかない」ではなく「全部出せ！」ありとあらゆる圧力を掛けて取り上げようとする。

ならば、これから持とうとしている国に対しては、もっと妥協しない。北朝鮮への態度を見せる事によって、「イランは10年間を過ぎたらまた核開発ができるが、アメリカは許さんぞ！」というプレッシャーをかけているんです。

③ トランプ大統領の中東戦略；アメリカの歴代大統領は、中東和平をしたいと思いつつもできませんでした。中東和平とは、ユダヤ人の国イスラエルとアラブ諸国が和平条約を結ぶという事。そのためには、アラブがイスラエルの存在を認めなければならない。そのためにイスラエルは、ある部分の土地を手放さなければならない。それは長らくできませんでした。しかし、トランプ大統領には秘策があるんです。

実はアラブと言っても2つのアラブがあります。持てる金持ちアラブと持たざる貧しいアラブ。油田地帯を持っているお金のあるアラブの筆頭がサウジアラビア。持っていない代表国はエジプト。アラブ人人口の1/4はエジプト人です。人口大国。ヨルダンも持っていない。でも、ヨルダンとエジプトはイスラエルと和平条約を結んでいるんですよ。

貧しい国々はサウジアラビアの援助があれば潤いますね。アラブの盟主であるサウジアラビアはイスラムスンニ派の大国。イランはシーア派。シーア派とスンニ派はめっちゃくちゃ仲が悪い。同じイスラムじゃないか。同じイスラムやから仲が悪い。

餃子の京都王将と大阪王将。洋菓子のヒロタとシュークリームのヒロタは元々先代まで同じ会社だけど、2代目になった時に兄と弟が争って本家と総本山。近い程、こじれた時に仲直りにしにくい。できない。貴花田と若花田、見て下さい。同じイスラムだから、正統派争いで余計に妥協できない。

サウジが恐れているシーア派の総本山がイラン。イランはペルシャ人。ペルシャ人のイスラム教徒の殆どがシーア派。しかし、アラブ人なのにシーア派の人もいる。イスラム世界はスンニ派が9割。シーア派はわずか1割。それなのに、2大宗派と言われている。アラブ人でシーア派の人たちは、イランと目と鼻の先のペルシャ湾岸に住んでいます。

サウジアラビアは石油大国ですが、どこを掘っても出るんじゃない。ペルシャ湾に面している所にだけ油田地帯が密集していて、石油があるのです。

もし、ここのシーア派の人たちが、イランのバックアップを受けて独立したら、サウジアラビアはただ広いだけの国。油田があるから国の値打ちがある。なので、サウジアラビアにとっては、もはや戦争する予定のないイスラエルよりも、同じイスラム教のイランシーア派の方が、はるかに恐ろしいんです。

イスラエルとアラブスンニ派（サウジアラビア）の共通点は、対イラン同盟として結び合う事。

トランプ大統領の中東戦略は、「イランという共通の敵に力を合わせて対抗していくために、中東和平しようよ」という事です。イスラエルとサウジアラビアが和平条約を結ぶのは時間の問題だと思いますよ。これは、ロシアに対しても大きなパンチになります。

今世界で1位の産油国はアメリカ。2位がサウジアラビア。3位がロシア。1位のアメリカは1年間に5億7千万トンの原油。2位のサウジアラビアは5億6千万トン。3位のロシアは5億5千万トン。3位と4位の差がとても大きいので、産油国と言うけど、価格に大きな影響を与える事ができるのはこの3カ国。もし、アメリカがサウジアラビアと価格協定してサウジが協力したら、ロシアには大きな衝撃です。ロシアには、石油と天然ガスと金しか売るのがないから。あと、武器。それとピロシキかな。

去年の7月・8月頃の原油価格(WTI)、アメリカのマーカンタイル取引所でやっていますが、大体78ドル。今日調べたら62ドルですよ。つまり、アメリカがサウジアラビアに増産を要求すると「はい、分かりました。」それで石油価格が下がって行ったら、ロシアは予算が立たない。ロシアに入って来る外貨は、原油価格でコントロールされるのです。

それだけでなく、ロシアは年金問題。それは日本も一緒やけど。年金受給開始年齢を5歳引き上げたという事で「プーチン、なんだ!」とエライ騒ぎになって、男性だけ上げて、女性は据え置きとか小賢しいことをやっています。ロシアで60歳が65歳になるって悲惨ですよ。だって、ロシア男性の平均寿命は60歳ちょっとじゃない? 「もらう前に絶対死ぬやん!」みたいな。これを日本でいうなら、年金受給開始年齢が80歳やで。日本の平均寿命と同じ感覚で見えていたら、ロシアの深刻さは分かりません。

アメリカはサウジアラビアという駒を持って、イスラエルとアラブを結び合わせる。しかも、この2つがアメリカに頼もしさを感じるには、イランを叩いたらいい。イランはロシアによって領土を削られっ放しだから、ロシアとは1つになるまい。だけど、イランはアメリカから叩かれれば叩かれるほど、ロシアに行かざるを得ない。ロシアもイランを助けずにはおれない。

長い歴史の中で考えられなかった事で、対立していた経緯のある国が、聖書に書いてあるからって、そうなるんか?! 今、目の前で起こっている。「ゴグはペルシャと共にイスラエルに入る」と書いてあります。

エゼキエル 38:6 ゴメルとそのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマ(現トルコ)とそのすべての軍隊、それに多くの国々の民がおまえとともにいる。

ベテは家。ベテ・トガルマはトガルマの家。これはアナトリア半島。現トルコ。

中東には3大民族がいます。アラブ民族・ペルシャ民族・トルコ民族。

トルコはアラブ民族ではなくトルコ民族。そして、トルコ民族は日本人の親戚。トルコ語と日本語はそっくりだそうです。てにをは(助詞)がある。発音も文法もウラル・アルタイ語族。主語の次に、すぐ動詞が来ない。そんな、やかましい言語じゃない。最後まで聞かないと分からない奥ゆかしい言語。

日本語は最高やと思いますよ。トルコ人で日本語達人な人いっぱいいる。この辺りの地域でナンバーワンの親日国、それがトルコです。

トルコは元々ここにいたのではありません。実はトルコは中東とは言えません。近東です。西洋と東洋の境目はボスポラス海峡・ダーラネルス海峡で、これの西を西洋・東をアジアと言います。

トルコは海峡をまたぐので西洋と東洋の両方なのですが、民族的ルーツを探るとモンゴル語源。日本の平安時代の頃に、馬に乗ってヨーロッパに行ったのがトルコ民族。だから、元々のトルコ人の先祖は私みたいな顔をしてるわけ。目細い。今のトルコ人は、エルドアンを見ても分かるように目パッチリ。ヨーロッパで混血が進んでそういう顔になったけど、元々こっち系。

今のトルコはアナトリア半島です。しかし、オスマン帝国時代の 400 年間は、今の中東全部+東ヨーロッパ+バルカン半島+ギリシャ+ハンガリー帝国を合わせたもの。ものすごく強くて大きな国でした。

そのオスマン帝国が小さくなってしまった遠因は、やっぱりロシア。ロシアとトルコは、この 500 年間に 14 回戦争している。ロシアと 14 回戦争したい？ 恐ろしや（ロシア）。ほんまに。その内の 2 回だけ、かろうじて勝ったけど、あとはいつもボコボコにされて、その度にドンドン領土を削られている。それでトルコは、余りにもロシアが恐ろしく、単独で押し返す事ができないので、ヨーロッパ最強の国ドイツ帝国と手を結びます。

ところがドイツは、トルコ（オスマン帝国）が頼んでないのに、第一次世界大戦をやってしまって、イギリス・フランスと戦いました。「オスマン帝国はドイツに付いたのか。よう敵に付いたな!」それでドイツが負けた後、オスマン帝国はイギリス・フランスによって解体されます。解体して、アラブ人にはアラブ人の国を・ユダヤ人にはユダヤ人の国を造ろうと、サイクス・ピコ協定が結ばれるんですね。

風前の灯になったトルコの戦争末期、ケマル（ムスタフ・ケマル・アタテュルク/1881-1938）という英雄的な将軍が出ました。アタはパパ。テュルクはトルコ。アタテュルクはトルコの父。ケマル・アタテュルクは「トルコの父ケマルさん。」これは後で付けられた称号です。彼は戦争末期に巻き返して、連合軍を破竹の勢いで打ち破って行きます。そうして、かろうじて確保したのが今のトルコ。トルコがこんなに小さくなった理由は、ロシアと対抗するためにドイツと組んだから。何や知らんけど、ドイツと組んだらあんまりいい事ない。

トルコは小さくなったのに、まだロシアはいてますやん。それで、ドイツではなく NATO のメンバーになる事によって、自らの安全保障を確保しようとしたわけ。だからトルコは西側の一員。NATO はロシアに対する集団的自衛権同盟です。なので、潜在的にロシアを敵とみなしている NATO のトルコが、ロシアと一緒にイスラエルに入って来るのはあり得ない事なんです。だけど、そう書いてある。そのあり得ない事が、今起ころうとしています。

トルコの東半分・シリア北部・イラク北部・イラン西部の中東一帯にはクルド人が住んでいます。全部で 3000 万人。そんなにいるのに国を持ってない。オランダは約 1600 万人。ベルギーは約 1100 万人。ルクセンブルクなんて 60 万人くらい。

3000 万人のクルド人が「国を持ちたい」と強く願いつつも、持てないのはなぜか？ 独立国家というのは、その民族が独立したいと思っただけでは持てません。

その時代に於ける大国・最も大きな影響力を持っている国が支持してくれないと、国は持てないのです。

冷戦時代のクルド人はどうだったのか？ 冷戦時代は米ソが東西に分かれて戦うのですが、トルコは NATO だからアメリカ陣営。シリアやイラクは社会主義政権だからソ連。アサド(1965-)もサダム・フセイン (1937-2006)も社会主義ですよ。

トルコ・シリア・イラクにもクルド人がいて独立したい。しかし、自分の味方が嫌がる事をボスはしません。冷戦時代は、アメリカもソ連も、自分のメンバーを不愉快にさせないために、クルド人国家を認めないという事で一致していました。なので、彼らは自立できるための様々な共同体を持っているけど、独立国家になれなかったのです。

ところがイラク戦争後、ここにイスラム国が生まれました。特にシリアの西半分に領域を築き、シリアを乗っ取って自分たちの国を造ろうとします。

しかし、ソ連の後継国家であるロシアのプーチン(1952-)はアサド政権を支持し、イスラム国を叩いて、ものすごく空爆しました。ロシアは陸軍を出しません。自分の若者たちを傷つけないから。陸軍を出したのはイラン。イランとロシアが手を携えてイスラム国を叩き、シリアのアサドを守った。

アメリカも同様に、イスラム国を叩いて空爆したけど、陸軍は出ませんでした。陸軍を出したのは自由シリア軍。これは、アサド政権を倒すための組織で宗教的ではありません。この軍の主力部隊がクルド人。アメリカは、彼らを物質面でバックアップしてイスラム国を撃退し、遂にイスラム国は事実上消滅です。

アメリカは「イスラム国を討伐し、アサド政権を倒したら、空き地が増えるので、そこにクルド人国家を造る」という暗黙の了解の下で、この戦争に加わったんです。

今までクルド人が独立を願ってもできなかったのは、大国が支持してくれなかったから。しかし歴史上初めて、大国がクルド人国家を支持する機運が出た…のが今です。

それに対して、もしシリアの一部にクルド人国家ができれば、トルコにいるクルド人も刺激されて、また独立闘争を始める。これは地下で繋がっているので、「こんな独立は絶対に許さん!」というのがトルコの立場。アメリカがクルド人国家を造るのに協力したら、トルコは黙っていない。

トルコは NATO だから、アメリカの陣営ですよ。今トランプ大統領は、ものすごく玉虫色です。

それをプーチンはジーンと見ている。そして「トルコがアメリカに付いていても良くない。私たちはクルド人の独立国家に絶対反対する。」つまり、アサド政権がそのまま残るという事は、トルコにもイランにもロシアにも国益なんです。「アサド政権存続で、シリアの戦後処理をする」という関係に於いて、トルコ・イラン・ロシアは 3 国同盟状態。

聖書に何と書いてありましたか？

エゼキエル 38:5-6 ペルシア(イラン)とクシュとプテも彼らとともにいて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。ゴメルとそのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマ(トルコ)とそのすべての軍隊、それに多くの国々の民がおまえ(ゴグ)とともにいる。

ゴグは、ペルシアとベテ・トガルマを連れてイスラエルに入って来る。500 年間に 14 回も戦争した国に擦り寄るはずがないと思うかもしれませんが、あり得ないような事が、今日の前に展開されているのです。

エゼキエル 38:7-8 備えをせよ。おまえも、おまえのもとに召集された全集団も構えよ。おまえは彼らを統率せよ。多くの日が過ぎて、おまえは徴集され、多くの年月の後、おまえは、一つの国に侵入する。そこは剣から立ち直り、多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。その民は国々の民の中から導き出され、みな安らかに住んでいる。

その民は国々の民の中から導き出され、これはイスラエル共和国の事。

ユダヤ人は 1900 年ほど前の AD70 年にローマに滅ぼされ、世界中に散らされました。ユダヤ戦争。そして殆ど虐殺され、97000 人のユダヤ人だけが生き残ります。彼らはアフリカ・ヨーロッパ・アジアに連れ去られ、奴隷として売り飛ばされ、国から根こそぎ取られ、世界中に少数派として散って行きました。

普通は散った先の民族と同化して、塗り潰されてしまいます。しかし、ユダヤ人は 97000 人で始まって、1900 年間ユダヤ人であり続けているのです。ユダヤ人としてのアイデンティティーを失わず、ユダヤ人のまま残っている。天然記念物みたいに手厚く保護されたのではないんですよ。

私は先月、ポーランド/アウシュビッツからイスラエルに 17 日間行って来ました。

ポーランドのワルシャワに『ポーランド・ユダヤ民族博物館』があります。是非行かれたらいいですよ。建物は真茶色で、2 つに分かれています。上を見ると空。変わったモニュメントのような建物。昔ユダヤ人はエジプトで奴隷状態でしたが、モーセという指導者に率いられて脱出しますね。そして紅海に来た時、その海が真二つに割れてユダヤ人だけが渡りました。その後荒野を 40 年さまよって、約束の地に入って行くのですが、その時の状況を体現するためのものです。

この博物館はユダヤ人迫害博物館です。「ユダヤ人は、なぜこんなに迫害されるの?!」というくらい。金持ちのユダヤ人は「ブルジョワだ! ロスチャイルドだ! 地下政府だ!」と言って怒られる。そう言って怒るのは共産主義の人たち。「労働者の天国にすべきだ!」

でも、共産党は共産党で、「マルクスはユダヤ人だった。」「ロシア革命にはユダヤ人がたくさん関わった。」「これはユダヤの陰謀だった。」両方で闘う。どう言っても、いつも叩かれ続けて来ました。

最後に学芸員が「反ユダヤ主義と反セム主義は違います」と。

「ユダヤ人はいつも嫌われてきた。それは反ユダヤ主義だ」と言うけど、反ユダヤ主義は、ユダヤ人の信仰に基づく区別。「彼らはユダヤ教で、我々と同化しないから」という事で迫害するのが反ユダヤ主義。

反セム主義は、同化しようが、その国の宗教に改宗しようが、血液の中にユダヤ民族の血が流れているなら、それだけでアウト! 何でそこまで憎むのかな。ずっと遡っていったら、みんな兄弟だと思いますよ。

そうやって迫害され続けて、ユダヤ人はこの 350 年の間に 2 回、完全絶滅計画に遭いました。

1 回目はポーランド。1 年間で 30 万人のユダヤ人がポーランドで虐殺されました。

その後、ポーランドはどうなりましたか? 123 年間消滅するんですよ。

2 回目がナチス・ドイツです。結果ドイツは戦後、東西に分断されました。

ユダヤ人を呪うと呪われます。「ユダヤ人を呪う者は呪われる。」これは聖書が語っている原則です。

ユダヤ人はずっと流浪の生活でしたが、終わりの時代が来る前には、多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。

イスラエルは南北に山地が走っていて、聖書に登場する町は全部山の上にあります。シェケムもエルサレムもヘブロンもベツレヘムも。

